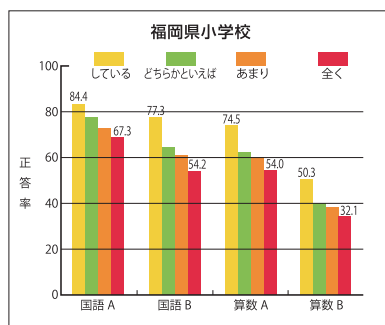


大人が 同じ意識で、 同じ目線で。

「友達がたくさんできるといいね。」「きちんと席について勉強できるだろうか。」
4月から小学校に入学する子どもの保護者にとっては、
これからの学校生活に対して、期待と不安が入り混じっていることと思います。
子どもが意欲的に学び、健やかに成長するためには、大人が同じ意識をもって、
同じ目線で子どもの成長にかかわることがとても大切です。
このリーフレットは、これからの小学校生活を迎えるにあたり、
保護者に意識してほしい子どもへのかかわり方をまとめたものです。
このリーフレットを読み、実践し、学校とともに子どもを育てていきましょう。

規則正しい生活習慣を 定着させるために

下のグラフは、全国学力・学習状況調査における教科の正答率と「朝食を毎日食べていますか。」という質問に対する回答との相関を表したグラフです。このグラフを見ると、朝食を毎日食べている子どもの正答率が高い傾向にあることが分かります。



平成22年度全国学力・学習状況調査
「福岡県での調査方式」による調査結果報告書
(平成22年11月・福岡県教育委員会)



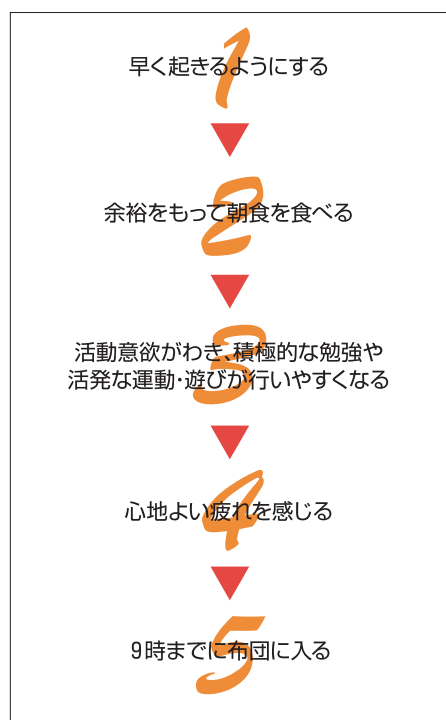
「早寝、早起き、朝ごはん」を定着させましょう。

子どもがよく学び、よく運動し、よく遊ぶといった活動意欲や体力等を向上させるためには、規則正しい生活習慣づくりが大切です。「できるだけ夜9時には寝る」という習慣がつけられると自分で早く起きるようになります。さらに、早く起きるのでお腹が空き、朝ごはんも食べます。そうすると、学校での学習や活動に意欲的になり、様々な面での向上が図られます。

ここがポイント

1. 生活リズムを安定させましょう。

下の1~5を繰り返すことで、生活リズムが整い、自分から早く起きられるようになります。



2. 早く寝るための環境をつくりましょう。

早く寝るための環境づくりとして、次の2点を心がけてください。

- ①寝る前約1時間はテレビを見たり、ゲームをしたりしない。
- ②寝る場所をできるだけ静かな環境にする。

注目

1

大人の都合に付き合わせないようにしましょう。

子どもの生活習慣は、保護者の考え方や行動で決まります。保護者が「これくらい…」とは思わず、「子どもの成長のため」と意識し、行動してください。

注目

2

朝ごはんの質を考えましょう。

「早寝、早起き、朝ごはん」運動が定着し、朝食を毎日食べる子どもが増えましたが、朝食が、菓子パンとジュースだけというケースもあります。栄養のバランスを考えた朝食にすると、脳の働きがより活性化されます。

I 学ぶ意欲を高め、学習習慣を身に付けるために



家庭学習にかかわりましょう。

子どもの学力の向上を図ることは、学校の重要な役割の一つです。しかし、学ぶ意欲を育むためには、子どもたちの生活基盤である家庭でのかかわりがとても大切になります。

ここがポイント

1. 学習環境を整えましょう。

家庭においては、落ち着いた環境で集中して学習できるように配慮するとともに、次のような「学習のきまり」を作って習慣化を図りましょう。

- ① 毎日必ず学習する。
(時間、やることを決める)
- ② テレビや音楽を消したり、机の上をきれいにしたりする。
- ③ 学校の宿題を最初にする。
- ④ 毎日、短い時間でも読書をする。
- ⑤ 勉強が終わったら、次の日の準備をする。

2. 子どもの家庭学習に意識して関わりましょう。

小学校低学年の間は、保護者の励ましや見守りが、学ぶ意欲や学習習慣に大きく影響します。「勉強しなさい!」と注意するだけでなく、子どもの学習の様子を把握し、できるだけ一緒に家庭学習に取り組んでください。

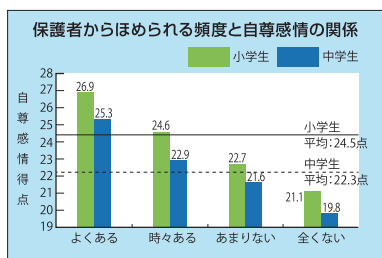
- ① 学校の宿題やプリント等は必ず目を通して、子どもと一緒に時間割を確かめる。
- ② 小さながんばりを見逃さず、励ましの言葉をかける。
- ③ 一緒に勉強ができないときには、宿題等に目を通しておき、後で声をかける。
- ④ 時には、入浴や団らんの時間を活用して、学習の成果を確かめる。

III 自尊感情を高めるために

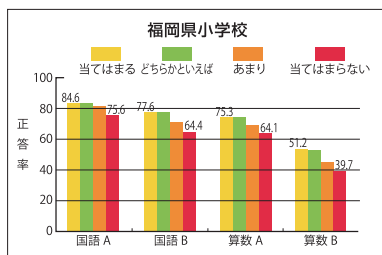
下のグラフ上段は、保護者からほめられる頻度と子どもの自尊感情の関係を表したものです。このグラフを見ると、保護者からほめられる回数が多いほど、自尊感情が高くなっていることが分かります。

また、下段のグラフは、全国学力・学習状況調査における教科の正答率と「自分には良いところがあると思いますか」(自尊感情)という質問に対する回答との相関を表したグラフです。

このグラフを見ると、「当てはまる」と回答している子どもの正答率が高いことが分かります。



「子どもの自尊感情と生活のあり方との関係についての研究」
(平成22年3月 福岡県青少年アンビシャス運動推進室)



平成22年度全国学力・学習状況調査
「福岡県での添削方式による調査結果報告書」
(平成22年11月 福岡県教育委員会)

日常から会話の仕方やほめ方を意識しましょう。

子どもが、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞き取ったり、感じ取ったりするには、日頃からコミュニケーション力をはぐくむことが大切です。また、「ほめて伸ばす」ことが子どもの成長にとってきわめて重要です。

ここがポイント

1. 子どもの話を最後まで聞きましょう。(言葉の先取りをしない)

「ご飯…」「じゃあ、食べる準備をしようね。」など、子どもが最後まで話す前に、言葉の先取りをすることはありませんか。子どもが、「主語、述語」を使ってきちんと話せるようになるために、大人は「待つこと」「我慢すること」、そして「最後まで伝えられるよう仕向けること」が大切です。子どもが、自分の思いを正確に伝えられるように大人が意識してかかわることが大切です。

2. 子どもの話は目を見て聞きましょう。時にはうなずき、共感しましょう。

コミュニケーションの成立には、聞く側の理解しようとする姿勢も大切な要素になります。コミュニケーションは、言葉や文字といった言語によるものと、「うなずく」、「相づちを打つ」などの非言語によるものがあります。大人が、話している子どもの目を見てうなずく等の反応をすることで、子どもは、話が相手に受け止められている、自分が大切にされていると感じ、安心して会話を続けよう、伝えようという気持ちになります。

3. 日頃から子どものよさに気づこうと意識し、ちょっとした伸びをとらえてほめましょう。

子どもの気になるところや直したいところばかりではなく、日頃からちょっとした伸びやよさに気づこうと意識しておくこと、ほめるべきところが

子どもにはたくさんあることが見えてきます。そして、ささいなことでも、大人の感覚で当たり前のことととらえず、積極的にほめましょう。例えば、大きな声で返事ができた、言われなくても宿題を始めた等、日常生活の中にはたくさんあります。

4. 「結果」だけでなく、「過程」も大切にしましょう。

例えば、テストや試合において一生懸命に頑張ってもうまくいかないこともあります。それを結果だけでほめたり、叱ったりしたのでは、自分は受け入れられていないと子どもは感じ、意欲も減退します。一生懸命に頑張った過程をほめ、次への意欲付けや目標設定に生かしてください。

5. ほめ方の工夫をしましょう。(感謝を添える、第三者の言葉を使って、…)

ほめるといっても、大げさに言う必要はありません。お手伝いしてくれた子どもに「ありがとう。助かったよ!」と、感謝の言葉を言ったり、ごみを黙って拾い、ごみ箱に捨てている子どもを見て笑顔でうなずいたりする。そんな工夫をするのも効果的です。さらには、「□□先生がすごい!って言っていたよ!」など、第三者の言葉を使うとかなり効果的です。